

令和5年度第1回東近江市地域公共交通会議要旨

令和5年5月24日（水）午前10時00分から午前11時50分
東近江市役所 317、318 会議室

- 出席者：南川会長、西村副会長、逢委員、田中委員、加藤氏（福島委員代理）、伊香委員、今井委員、海外委員、山口委員、大塚委員、夏原委員、寫村委員、野村委員、榊原氏（飯田委員代理）、北村氏（飯田委員代理）、辰野氏（磯谷委員代理）、山本委員、糸委員、中島氏（角委員代理）、櫻木委員、池元委員
- 事務局：藤田部長、山本管理監、須田課長補佐、加藤主任、今濱主事
- 欠席者：松尾委員、杉山委員

- 1 開会 【進行：山本管理監】
- 2 委嘱状交付
- 3 挨拶（小椋市長）
- 4 東近江市地域公共交通会議について（山本管理監）
- 5 会長、副会長選出（会長：南川副市長、副会長：西村専務理事）

【以降南川会長が議長となり議事を進行】

6 議事

報告事項

- (1) 令和4年度東近江市コミュニティバス利用状況等について
事務局から資料1、時刻表に基づき説明
【意見・質問】
特に意見・質問なし。
- (2) 令和4年度近江鉄道路線バス及び近江鉄道の利用状況について
近江鉄道㈱から別冊資料に基づき説明
【意見・質問】
特に意見・質問なし。
- (3) 近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会（法定協議会）での議論経過について
事務局から資料2に基づいて説明。

【意見・質問】

特に意見・質問なし。

協議事項

(1) 東近江市地域内フィーダー系統確保維持計画について

事務局から資料3に基づいて説明。

【意見・質問】

会長 地域内フィーダー系統補助金は市のちょこっとバスのみ対象となるのか。例えば近江バスが新規路線を作ったときは対象になるのか。

事務局 近江バスは、地域間幹線系統確保維持国庫補助金を国から受けている。地域内フィーダー系統補助金としては市のコミュニティバスが対象となっている。

会長 ちょこっとバスは市街地循環線や大中線の他にも市原線や湖東線等の路線があるが、それらについても地域内フィーダー系統補助金は交付されているのか。

事務局 地域内フィーダー系統補助金については、制度がはじまった平成23年3月以降に新たに運行を開始する路線であることが補助対象の要件として定められているため、大中線、市街地循環線が対象となっており、それ以外の路線は対象外となっている。

会長 今回は、市街地循環線と大中線について、地域内フィーダー系統補助金の対象にするようにこの場で了解していただく、ということか。

事務局 そのとおりである。

会長 今まで御園線や市原線等をつくったときにも地域内フィーダー系統補助金は交付されていたのか。

事務局 大中線、市街地循環線以外の路線は平成23年3月以前から運行しているため補助対象外となるので、補助金は交付されていない。

会長 地域内フィーダー系統補助金は何年間交付されるのか。

事務局 補助制度が続き、補助条件を満たしている限りは交付される。

【採決の結果、全会一致により承認】

7 その他

- 令和5年度公共交通利用促進策の取組みについて
事務局から資料4-1、資料4-2に基づいて説明

【意見・質問】

特に意見・質問なし。

- 滋賀交通ビジョン見直しの進捗について

滋賀県交通戦略課から資料5、SHIGA SMART ACCESS 2040 s のプロモーション動画に基づいて説明

【意見・質問】

事務局 県で動画を昨年度に公開していたと思うが、県民の方々からの意見等、紹介できるものがあれば教えてほしい。

委員代理 キラキラしすぎているというご意見はいただいた。県としてもこの動画のとおり滋賀交通ビジョンを進めると宣言したわけではなく、理想の社会のビジョンとしてまず提案させていただいた。ここまでの整備が必要であるなら費用の負担等も発生するかと思うが、滋賀県の地域の皆様はどこまでのサービス水準を目指していくかを聞いていくためのきっかけとして動画を作成した。今後意見を求めていきたい。

- ・ 公共交通会議委員の見直しについて

事務局から説明

【意見・質問】

特に意見・質問なし。

全体を通じての意見

委員 事務局からフィーダー系統補助金の説明があり、南川会長の補助金が交付される期間に関する質問に対し、補助制度が続く限り交付されるといった回答があったが、その点について補足したい。

地域内フィーダー系統補助事業は、全国的に、赤字ではない路線がほとんどないという状況の中で、国としても本当に必要な路線にだけ赤字補填の支援をしていくという事業となっている。国土交通省としては必要な路線に対する補助金の確保に努めているところではあるが、財務当局からは大幅な赤字なのになぜ運行しないといけないのかといった質問が来る。国土交通省としてはそれでも必要だということを伝えてはいるが、この事業についていつまでも潤沢に予算を確保できるとはなかなか申し上げられない。国土交通省でも別の補助金のメニューを考えているが事務局の方でも何か案があれば考えていただきたい。